

学校図書館における漫画の収集と活用について

石井 早智子

漫画は、平成 12 年度の文部科学省「教育白書」(2000)において「マンガは重要な現代の表現として認知されつつある」と述べられている等、教育現場での活用の動きが広まっている。また、先行研究において漫画に抵抗感なく読解を深めることができる等の効果があることが示唆されており、学校での活用が期待されていると考えられる。しかし、学校図書館における漫画の収集・活用状況は明らかになっておらず、どのような漫画の効果が挙げられているのか整理する研究も行われていない。

そこで、本研究では高校の学校図書館における漫画の収集・活用状況を明らかにすること、漫画に期待される効果を明らかにすることを目的として、3つの調査を行った。

予備調査では、主にストーリー漫画を対象とする 2018 年から 2020 年の 3 年間に発表された図書・論文・雑誌記事 10 件から 43 の記述を抽出した。これらの記述を類似したキーワードや内容ごとに小カテゴリとしてまとめた。次に、類似した小カテゴリを中カテゴリ(「学力的側面」、「心理的側面」)にまとめた。さらに類似した中カテゴリを大カテゴリ(「ポジティブな側面」(79.1%)、「ネガティブな側面」(20.9%))にまとめた。

質問紙調査では、埼玉県内の公立普通科高校 99 校の司書を調査対象として、学校図書館での漫画の所蔵状況等の調査を行い、43 校から回答を得た(回収率 44.4%)。分析の結果、43 校(100%)が漫画を収集しており、リクエストを受け付けている高校は 28 校(65.1%)であった。また、学習や進路の参考になる等の基準で選書を行っていること等が明らかになった。

インタビュー調査では、質問紙調査の回答校から所蔵タイトル数、選書基準等の条件より 6 校を抽出し、3 校(50%)から協力を得て、教員の漫画に対する意見、選書基準や収集状況、漫画に期待される効果への司書の意見を調査した。分析の結果、3 校の教員から授業利用等で漫画への賛成意見が多く聞かれることが明らかになった。漫画の選書に関しては 3 校ともリクエストや生徒との会話、アンケートを基に収集を決定していた。漫画の活用として 3 校から挙げられたのは歴史等の授業内での紹介および展示であった。展示についてはテーマに沿った漫画とその他の図書を区別せずに展示していた。漫画に期待していることとして、「図書館への来館のきっかけになること」や「何かを知るきっかけになること」が挙げられた。また、ネガティブな側面への意見として、内容が偏った図書は漫画に限ったことではないという意見が示された。

予備調査、質問紙調査およびインタビュー調査の結果から、漫画収集校の司書、教員ともに漫画に対してよい影響を期待する意見が多く、漫画が学習や進路の参考になると考えられており、歴史等の授業内等での活用が見られることなどが明らかになった。今後、漫画を学校図書館に収集した経緯やリクエスト以外の選書方法の詳細を明らかにする必要がある。

(指導教員 鈴木佳苗)